



推薦入試から一年

日曜日はいよいよ日比谷の推薦入試である。昨年、この試験を受けた人もいるだろうから、あれからもう一年経ったということである。

知っての通り、今年から選抜の方法が変わって、「集団討論」（面接官2名vs受検者5～6名）が加わった。その結果、選抜に関わる配点も、調査書450点+小論文150点+面接（集団+個人）300点となった。従来の配点（調査書450点+小論文100点+面接170点）よりも調査書点の割合が減ったから、逆転合格の可能性が高まるのかも知れないし、一方、小論文や面接点ではあまり差がつかなくて、結局は例年通りの結果になるのかも知れないし、何にせよ、制度を変えた一年目の結果は注目されることだろう。

＊

それにしても「一年は早いなあ～」というのが正直な感想だろう。しかし、一年前の自分と今の自分とを比べて、「成長した!」といえるだろうか？

確かに、学力は伸びたに違いない。英語や国語の問題などは、日比谷の入試がひどく易しく見えるはずだ（数学は?...笑）

運動部に入った人は、体力面でも大きく向上しているだろうし、運動部に入っていない人でも、高校生として身体能力は高まっているに違いない。通学に時間がかかるようになって、それだけで体力がアップ?したとを感じる人がいるかも知れないし、「考査前には寝ないでも大丈夫になった!」などと自慢する人

もいるのかも知れない（笑）。

では、気持ちの面ではどうだろう？ 中学生だったころの毎日と、日比谷生になってからの一日一日とでは、何か違ってきているだろうか？ 授業や部活に対する取り組み態度はどうだろう？ そして、周囲の友だちとの関わり方は？

＊

私は、ぜひ「変わってほしい」と思っているのである。中学校時代を振り返って、例えば「アレがうまくいかなかった」とか「コレがいつもダメだった」と感じていることがある人は、日比谷の生活の中で是非それを改善してほしいし、逆に、中学校時代を振り返って、「アレだけは負けなかった!」とか「コレはちゃんとやり続けたな」といったことがあれば、それをさらに進化（深化）させてほしいと思うのである。

日本には「変わらぬ良さ＝伝統」みたいなものを強調する風潮があって、それはそれで良いことだとは思いますが、成長の過程にある君たちは、変わることを恐れてはいけなし、むしろ、積極的に変わることにはチャレンジすべきだろう。この前の「R-CAP」もそんなきっかけの一つとなるはずだ。

すぐ目の前にある「日常生活」や「勉強法」、ひいては自分の将来の進路など、何か心に引っかかるモノがある人は、1～2年生のうちに色々あがいてみることだ。周囲には優れた友だちもいる。あがくことで、何か新しい展開が見えてくるに違いない。